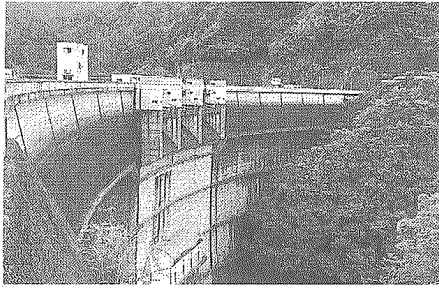


## 日田市の水害回避に効果

自民党の足立敏之参議院議員は、7月豪雨時に効果を発揮したダムを確認する一環で、大分県の日田市街地の上流に位置する松原ダムと下笠ダムを11日に視察した。

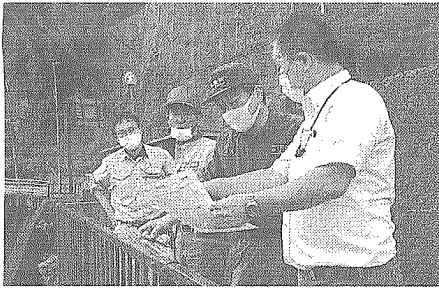


上流側の  
下笠(しもうげ)ダム

## 大分の松原・下笠ダム視察

立議員  
足院議

大いに発揮。日田市での水位を1.2m低下させ、日田市街地を水害から守ることができた。両ダムが整備されていなければ、8日2時頃にダム下流で水位が上昇し、計画高水位を超過していたことが推定されると言う。



ダムの説明を受ける  
立議員(右から2番目)

下流の人たちの命を守ることができた。ダム効果の証となるプロジェクトの1つだ」と評価するとともに、改めてダム事業の重要性を強調した。

両ダムは、1973年に完成しており、九州地方整備局から最大の流入量を記録し上流側の下笠ダムが満杯になり、異常洪水時防災操作に移行したものの、下流側の松原ダムがそれをしっかりと受け止めた。

これにより、洪水調節の効果を

7月7日前後の梅雨前線による豪雨時には、ダム完成から最大の流入量を記録し上流側の下笠ダムが満杯になり、異常洪水時防災操作に移行したものの、下流側の松原ダムがそれをしっかりと受け止めた。

運用されている。

「ダムが連携して大きな効果を生出し、